



ケンパー・プロファイラー
ベーシック・マニュアル

免責事項、商標について

本マニュアルおよび本マニュアルに記載のソフトウェアおよびハードウェアは、使用許諾契約に基づいて使用されるものであり、使用および複製は当該使用許諾契約の条項に準じます。また本マニュアルの内容は、本機の機能を説明するためにのみ記載されるものであり、予告なく変更されることがあるとともに、本マニュアルの内容は Kemper 社 (Kemper GmbH) が確約したものと解釈されません。

Kemper 社 (Kemper GmbH) は、本書の誤記等に関し一切の責務を負いません。また本書の使用許諾契約で許可される範囲以外の内容に関する複製および検索システムへの登録、または電子的手段、機械的手段、録音および録画、撮影、狼煙、その他いかなる手段における送信も、Kemper 社 (Kemper GmbH) の書面による事前許諾がない場合、これを行うことはできません。

Kemper Profiling Amplifier は Kemper 社 (Kemper GmbH) の商標です。その他の商標はそれぞれの保有者が管理する資産です。また本機の外観および仕様は、予告なく変更されることがあります。(2015 年 1 月改訂)

© Copyright 2015 Kemper GmbH. All rights reserved.

www.kemper-profiler.com

目次

ケンパー・プロファイラー ベーシック・マニュアル

あなたが購入したものは？	1
さあ始めましょう！	3
様々な機器との接続	3
「リグ」を選ぶ	4
スタック・セクション	5
エフェクト・セクション	5
フロント・パネル	7
リグ・ナビゲーション ボタン (1)	8
TYPE (タイプ) ノブ (2)	8
BROWSE (ブラウズ) ノブ (3)	9

PAGE (ページ) ボタン (4)	9
EXIT ボタン (5)	10
ON/OFF ボタン (6)	10
LOCK (ロック) ボタン (7)	10
COPY / PASTE ボタン (8)	10
STORE (ストア) ボタン (9)	11
GAIN (ゲイン) ノブ (10)	11
INPUT (インプット) ボタン (11)	12
INPUT LED (インプット LED) (12)	14
NOISE GATE (ノイズゲート) ノブ (13)	14
OUTPUT/MASTER (アウトプット/マスター) ボタン (14)	14
MASTER VOLUME (マスター・ボリューム) ノブ (15)	15
VOLUME (リグ・ボリューム) ノブ (16)	15
UNDO/REDO (アンドゥ/リドゥ) ボタン (17)	16
USB (18)	16
リア・パネル	17
MAIN OUTPUTS (メイン・アウト) (1)	18
MONITOR OUTPUT (モニター・アウト) (2)	18
DIRECT OUTPUT/SEND (ダイレクト・アウト/SEND) (3)	19
RETURN and ALTERNATIVE IN (リターン、オルタナティブ) イン (4)	19
POWER (5)	19

USB (6)	20
NETWORK (イーサネット) (6)	20
PEDALS and SWITCHES (ペダル / スイッチ) (7)	20
MIDI (8)	20
S/PDIF (デジタル・イン / アウト) (9)	21
SPEAKER OUTPUT (10)	21
Kensington™ Lock (ケンジントン・ロック) (11)	21
パワーアンプ	22
警告！	23
チューナーを使う	24
リグを作る	25
ストップ・セクション	25
スタック・セクション	26
エフェクツ・セクション	26
システムを設定する	28
システム・メニュー	28
リグ・メニュー	28
QUICK (クイック) ボタン	28
リモート・コントロール	29

あなたが購入したものは？

ケンパー・プロファイラー（以下：プロファイラー）をお選びいただき、ありがとうございます。プロファイラーの全てをご理解いただけた瞬間に、我々自身が味わった興奮を、同じように体験していただけるでしょう。我々はギター演奏に必要なソリューションを追求する上で、常に既存のデジタル・モデリング・アンプを遥かに超えるものを提供したいと考えてきました。そして遂に、ユーザー自身が自分のアンプを「プロファイリング」できる画期的なデジタル・ギター・アンプを開発できました。もちろんあなたアンプ以外の「プロファイル」も読み込むことができます。しかも単なるシミュレーションではなく、それらのアンプそのものをデジタル化したと言えるものなのです。

◆ マニュアルの構成

プロファイラーの操作はストレートで分かりやすく設計されていますが、機能や操作を効率的にご理解いただくには、次の3種類のマニュアルが役に立つでしょう。まず現在お読みになっている本書がベーシック・マニュアルです。本書はプロファイラーを使い始め、欲しい音を選び出すために必要な情報をまとめた一冊です。お手元にプロファイラーとギターを用意してお読みになれば、本書の内容を直ぐに試すことができるのでお勧めです。プロファイリング・ガイドは、ギターアンプのプロファイリングを実行するためのガイドです。ご自分でプロファイルやリグの追加を行う場合には必読書となります。そしてリファレンス・マニュアルには、プロファイラーのパラメーターひとつひとつの説明に加え、より深くプロファイラーをご理解いただくための解説が記載されています。ベーシック・マニュアルで触れていることは重複しませんので、ベーシックとリファレンスの2冊は何れもお読みいただくことをお勧めします。マニュアルはPDF版がウェブ・サイトからダウンロード可能で、必要に応じてアップデートしています。

◆ ソフトウェアのアップデート

デジタル技術のアドバンテージの一つは、ソフトウェアによって様々なアップデートが行えることでしょう。我々は、適宜ソフトウェアによる機能追加や改善を無償でご提供しています。あなたのアンプの真空管を、より信頼性の高いものに差し替えるようなものです。ケンパーのウェブサイト：www.kemper-amps.com/start から、最新のソフトウェアをダウンロードして下さい。そしてこのページを頻繁にチェックすることをお勧めします。

◆ リグ・マネージャー

「リグ・マネージャー」は、プロファイル・データの管理を効率的に行うためのライブラリアン・ソフトです。ケンパーのウェブサイト：www.kemperamps.com/start から、無償でダウンロード可能です。

◆ ユーザー・フォーラム

マニュアルによって十分な情報をご提供できるよう、我々も常に努力していますが、ユーザー同士の情報交換は、皆様にとって大変有益でしょう。ケンパーのウェブサイトには、日本語で情報交換をしていただけるユーザー・フォーラムをご用意しています：www.kemper-amps.com/forum

さあ始めましょう！

前置きはこれくらいにして、早速ギターをつないで音を出してみましょう！

- フロントパネルの右側にある INPUT ジャックにギターを接続して下さい。
- フロントパネル左側の HEADPHONE ジャックにヘッドホンをつなぐか、リアパネルの MAIN OUTPUT をミキサーまたはパワード・スピーカーなどに接続しましょう。
- チキンヘッド・ノブを BROWSER の位置まで回し、電源を入れます。

スタートアップ画面に続いて、日付と時刻や名前を入力する画面が表示されます。これらの項目は必ず入力して下さい。なぜなら、あなたがこのプロファイラーに新しいサウンドを保存すると、日付とあなたの名前がタグ付けされるからです。タグの情報は、欲しいサウンドを素早く見つけ出したり、リストアップするときに役立つのです。これで準備完了！ファクトリー・プリセットをブラウズしてギターを弾いてみましょう。

プロファイラーはベースにも使用できます。既に多くのプロ・ベーシストたちが、独自のサウンドを自由に作れるプロファイラーを使い始めています。リファレンス・マニュアルの「ベース・プレイヤーのためのヒント」章には、プロファイラーに搭載されたベースのための機能などの情報がまとめられています。

様々な機器との接続

プロファイラーは、レコーディング・スタジオ・クラスのアナログ・インプット段を装備し、それに続く A/D コンバータも最先端のものを使用しています。プロファイラー内部のプロセスを経た信号は、高品位 D/A コンバータから最高のクオリティで出力されます。またメインのイン／アウト以外にも、様々な目的／用途の入出力を、アナログまたはデジタルで装備しています。それらについては、後に詳しくご説明します。豊富なインプット／アウトプットを装備したプロファイラーは、ギター やアンプ、エフェクターやレコーディング機器などの中心に置き、ハブ的な存在として使用することができます。

アナログ・アウトプットには、スタジオやステージでのハムにまつわる問題に対処できるよう、グラウンド・リフト・スイッチを装備しています。

「リグ」を選ぶ

プロファイラーは、様々なサウンドを「リグ」という単位で保存しています。プロファイラー内のシグナル・フローは、インプット・セクションからスタートし、ストップ、スタック、エフェクツの3つのセクションを通過してアウトプット・セクションに到達します。フロント・パネル上部に、このシグナル・フローを構成するセクションが、信号の流れの通り左から右に並んでいるのがお判りでしょう。各セクションは3つまたは4つのモジュールから成っています。この3つのセクション：ストップ／スタック／エフェクツの内容をまとめてストアしたものが「リグ」です。

各セクションに並ぶボタンが、それぞれのセクションやモジュールをコントロールして音作りを行う操作の入り口です。ボタンを押すと、そのセクションまたはモジュールがオンまたはオフになり、長押しするとそのセクション／モジュールにフォーカスされ、様々パラメータが画面に現れます。LCD画面の下段に最大4つのパラメータが表示されます。各パラメータは、その下にあるツマミ（ソフト・ノブ）でコントロールすることができます。フォーカスしたセクション／モジュールに4つ以上のパラメータがある場合は、LCD画面右横のPAGEボタンが点灯します。ボタンを押すと前後のページに移動し、新たなパラメータが表示されます。EXITボタンでフォーカスから抜け、通常画面に戻ることができます。

パラメータをエディットした後、元に戻りたい場合はUNDOボタンを押すと、直前の状態に戻ります。REDOボタンで直前のUNDOをキャンセルすることも可能です。

ブラウザ・モードでは、フロントパネル右にあるRIGボタンでリグを選択することができます。左右のボタンでひとつづつ移動し、上下ボタンでは大きな単位で移動します。LCD画面右横のBROWSEノブを回すとリグが8つつまとめて表示され、スクロールすることができます。LCD画面上のソフト・ボタン2「Sorted by ...」を使うと、リグを作成日順や作成者順などに並べ替えることができます。好きなリグをハイライトし、ソフト・ボタン4「Load」を押すと、そのリグが読み込まれます。

好みのリグをロードしたら、GAINやEQのノブで音色をエディットしてみましょう。これらのノブを回すと、その値がLCD画面に表示されます。

ストップ・セクション

STOMPS、つまりストップ・セクションは、ストップ・エフェクトのためのセクションです。ストップ・セクションは、A～Dの4つのモジュールで構成されており、それぞれのモジュールにはプロファイラーに内蔵されている様々なエフェクトを、自由にアサインすることができます。インプット・セクションからの信号は、これらのモジュールにアサインされたストップ・エフェクトを通過して、次のSTACKセクションに送られます。

◆ ストンプ・モジュール LED のカラー

各ストンプ・モジュールの LED は、単に点灯するだけではなく、いくつかの異なる色で点灯することに気づかれるでしょう。これらの LED は、アサインされたエフェクトの種類によって点灯する色が変わり、アサインされているエフェクトの種類を報せるのです。

エフェクト・モジュールのボタンを長押ししてフォーカスし、LCD 画面左の TYPE ノブを回すと、様々な種類のエフェクトが選べます。一方 LCD 画面右の BROWSE ノブを回すと、「Stomp Presets」が表示されます。「Stomp Presets」には、好みの状態にパラメータをセットしたエフェクトをエフェクト単独で保存しておくことができ、他のリグでも同じ設定で使いたいときに便利です。

スタック・セクションの後ろにあるエフェクト・セクションでも、好きなエフェクトを使うことができます。このセクションにはディレイとリバースもあり、この 2 つのエフェクトについては、フロントパネルの専用ノブでもパラメータをコントロールすることができます。

スタック・セクション

シグナル・フローの中心にあるのはスタック・セクションです。スタック・セクションは、Amplifier、EQ、Cabinet の 3 つのモジュールで構成されています。スタック・セクションは、プロファイリングによってデジタル化されたアンプとキャビネットから成るセクションです。

スタック・セクションでは、アンプとキャビネットを好きなように組み合わせることも可能です。Amplifier または Cabinet モジュールのボタンを長押ししてフォーカスし、BROWSE ノブを回すと、プロファイラーにストアされたアンプまたはキャビネットが表示されます。

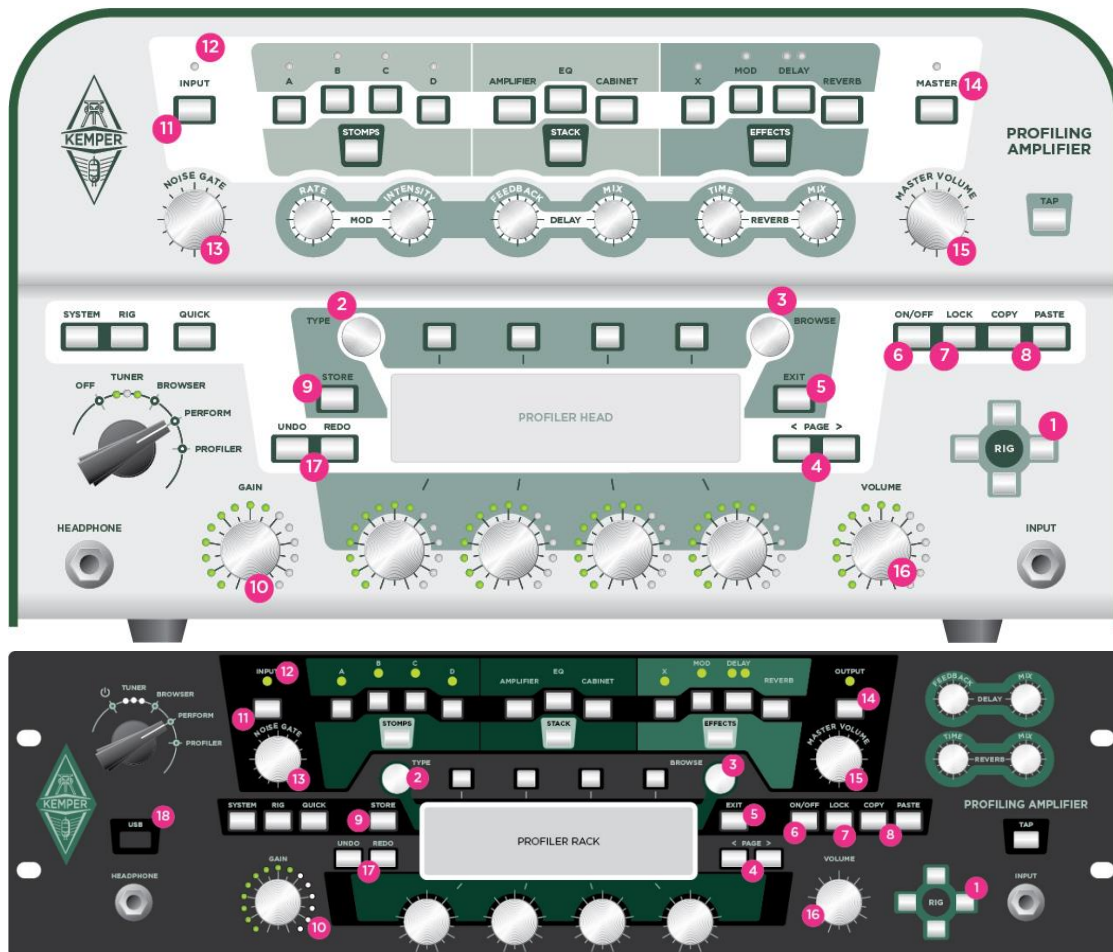
エフェクト・セクション

先にも少し触れたとおり、スタック・セクション、即ちアンプ + キャビネットの後にも内蔵エフェクトをアサインすることができるエフェクト・セクションがあります。このセクション以降は、シグナル・フローがステレオになります。エフェクト・セクションを構成する 4 つのモジュールのうち、ディレイとリバースは配置が固定されています。ディレイとリバースについては、そのパラメータの一部：DELAY MIX と FEEDBACK、REBERB MIX と REBERB TIME の専用ノブがフロント・パネル配置されていて、素早くコントロールすることができます。

X および MOD モジュールには好きなエフェクトをアサインすることができます。プロファイラー・ヘッドまたはパワー・ヘッドには、モジュレーション系のエフェクトのための専用ノブ：MOD RATE と MOD INTENSITY が装備されていますので、MOD にはファイザーやフランジャーなどのモジュレーション系エフェクトをアサインすると便利です。

何れのセクションも、「Section Preset」として、セクション単位の内容を保存することが可能です。「Section Presets」は、何れかのセクションにフォーカスしている状態で BROWSE ノブを回すことで呼び出すことができます。

フロント・パネル



フロント・パネル上部のいくつかのボタンやノブについては、前の章でご説明しましたが、以下に全てのボタンやノブについて簡単にご説明します：

リグ・ナビゲーション ボタン (1)

このボタンでリグを選択します。左右のボタンでひとつずつ、上下のボタンはいくつかまとめてリグが移り変わります。選んだリグは直ちに読み込まれます。

TYPE (タイプ) ノブ (2)

ストップやエフェクツ・セクションのモジュールにフォーカスし、TYPE ノブを回すと、ディストーションやコンプレッサーなどの内蔵エフェクトが選択できます。

同じ種類のエフェクトをブラウズすると、共通のパラメータの設定値がそのまま維持されることに気がつくでしょう。例えばワウ系のエフェクトに共通のパラメータであるレンジを設定し、同じレンジの設定で別のタイプのワウを試すことができるということです。他にもフェイザーとフランジャーなど、同じスキームを持つ異なるエフェクトを試すときにとても便利です。

ブラウズ・モードでは、TYPE ノブで「View」を選択することができます。「View」は以下のように、選択した要素で表示されるリグを絞り込み、リグの検索を容易にします：

All Rigs	ブラウズ・モードのリグ格納エリア (以降ブラウズ・プールと呼びます)にあるリグを全て表示
Current Author	直前に選択したリグと同じ作成者 (Author) のリグのみを表示
Favorites	フェイバリット・マークがつけられたリグのみを表示 (RIG ボタンを 2 秒間押すことによりマークしたり解除したりすることができます)
Last Imported	直前にインポートしたリグのみを表示

My Rigs	あなたが作成したリグのみを表示 (そのプロファイラーの所有者名がリグ作成者になります)
Non-Favorites	フェイバリット・マークがつけられていないリグのみを表示
Just Bass	タグの対象楽器がベースと記録されているリグのみを表示

BROWSE (ブラウズ) ノブ (3)

ブラウズ・モードでは、このノブでリグを縦覧することができます。このとき表示されるリグは、「View」によって絞り込むことも可能です。選択したリグを読み込むことができる一方、ソフト・ボタン「Delete」で消去することもできます。パフォーマンス・モードでは、このノブによってパフォーマンスを縦覧することができます。何れのモードに置いても、**BROWSE** ノブを回すとリストが表示され、さらに回すとスクロールすることができます。

モジュールやセクションにフォーカスされている状態では、このノブを回すことによって、フォーカスしているセクションやモジュール対象のプリセットを選択することができます。各々のセクションやモジュールのプリセットは、フォーカス中に **STORE** ボタンを押すことで実行できます。

- ✓ **TYPE** ノブと **BROWSE** ノブそれぞれの役割を理解すると、より効率的に操作できるでしょう。例えばエフェクトをアサインするモジュールにフォーカス中は、**TYPE** によってエフェクトの種類を選択しますが、その際共通するパラメータの設定値は変化せず、異なるタイプのエフェクトを試しやすくなっています。一方 **BROWSE** ノブで選択するのは、エフェクトのタイプとともに、そのパラメータ設定を保存しているプリセットを選択しますので、エフェクトのタイプとともに保存されたパラメータ設定値も読み込まれます。

PAGE (ページ) ボタン (4)

フォーカスしているモジュールのパラメータが 4 つ以上ある場合、**PAGE** ボタンが点灯し、そのボタンにより他のパラメータのページに移動します。

EXIT ボタン (5)

このボタンにより、モジュール等にフォーカスした状態から抜け、「プレイ画面」に戻ることができます。

ON/OFF ボタン (6)

フォーカス中のセクションやモジュールのオンまたはオフにするボタンです。各モジュールや各セクションのボタンでも、そのモジュールやセクションをオンまたはオフにすることが可能です。

LOCK (ロック) ボタン (7)

特定のセクションやモジュールをロックすると、リグを変えてもそのモジュール／セクションは固定されたままになります。つまりロックしたモジュールやセクションは、グローバル・セッティングと考えることができます。LOCK ボタンを押しながら、ロックしたいモジュールやセクションのボタンをすることで、ロックおよびその解除ができます。

LOCK ボタンを押し続けると、ロックされているモジュールやセクションの LED が全て点灯します。

- ✓ ロック機能は、パフォーマンス・モードとブラウザ・モードのそれぞれで個別の内容に設定することができます。例えばブラウザ・モードでは INPUT をロックし、パフォーマンス・モードではロックしないという具合に。実はこれがデフォルト設定です。

COPY / PASTE ボタン (8)

COPY ボタンと PASTE ボタンで、あるモジュールやセクションの内容を別の場所に複写 (コピー&ペースト) することができます。例えばあるエフェクトの設定を同じリグの別のモジュールまたは全く別のリグのモジュールに貼付けるといふ具合に。コピーしたいモジュールやセクションにフォーカスした

状態で COPY ボタンを押すと PASTE ボタンが点灯します。そしてその内容を貼付けたいモジュールにフォーカスし、PASTE ボタンを押すだけです。

コピー&ペースト機能の制限は、ごく普通に理解できる単純なことです。例えばストンプ A の内容を、B～D はもちろん X や MOD にペーストすることは可能ですが、AMPLIFIER にペーストすることはできません。REVERB の内容は REVERB モジュールにしかペーストできませんという具合です。ペーストできないモジュールを選ぶと警告が表示されますので、心配は無用です。

STORE (ストア) ボタン (9)

LCD 画面左横の STORE ボタンにより、リグやパフォーマンスまたはモジュールの内容を保存します。

ブラウズ・モードで STORE を押すと、3 つの選択肢が提示されます。「Replace」を選ぶと、現在選択されているリグに同じ名前で上書きします。「Store as」は新しい名前で現在の内容を保存し、元のリグはオリジナルのまま残します。「Rename」は、選択中のリグの名前を変更して上書きしますので、オリジナルは残りません。

モジュールやセクションにフォーカスしている状態で STORE を押すと、フォーカス中のモジュールやセクションの内容をプリセットとして保存するか、リグ全体を保存するかという選択肢が提示されます。モジュールやセクションのプリセットも、名前をつけて保存することができます。

保存したプリセットは、モジュールやセクションにフォーカスしている状態で BROWSE ノブを回すと表示され、読み込むことができます。

GAIN (ゲイン) ノブ (10)

GAIN ノブは歪み具合を調整します。ウルトラ・クリーンから超ハイゲインまで、オリジナル・アンプの限界をも超える広いレンジをカバー。

「Gain」パラメータは、あらゆる段階でのゲイン・リダクションを補完します。どのアンプ・プロファイルにおいてもゲインを「0」にすることができます。歪んだアンプのプロファイルでも GAIN を「0」にすると、歪んでいる状態と同じ音量で歪みやコンプレッションの無い音になります。

INPUT (インプット) ボタン (11)

INPUT ボタンを押すと、インプット・セクションに関する設定画面が表示されます。この画面では、どのインプット端子を使用するのかや、インプット・センスを設定します。専用ノブ：NOISE GATE を持つノイズ・ゲートもインプット・セクションに属します。

◆ Clean Sens (クリーン・センス)

極端に出力の高いギターは不要な歪みを生むことがあります。INPUT の LED が赤く点灯してそれを報せます。このような場合はクリーン・センスを少し下げてください。ギターの出力は搭載されているピックアップによって出力レベルによって異なります。例えばシングル・コイルのピックアップよりもハムバッカー、さらにアクティブ・タイプのピックアップの方が高いレベルの信号を出力します。もしクリーン・トーンがゲインを上げて歪ませたときよりも大きすぎたり、逆に小さすぎると感じられる場合は、クリーン・センスを調整してクリーン・トーンを適切な大きさにしてください。

- ✓ クリーン・センスの設定はクリーン・トーンにのみ作用し、アンプやエフェクによる歪み方には影響を与えません。

◆ Distortion Sens (ディストーション・センス)

あなたのギターでファクトリー・リグを演奏したとき、ほとんどのリグで歪みすぎる (あるいは思ったように歪まい) と感じる場合は、ディストーション・センスを調整してください。ディストーション・センスのノブがセンターの位置 (値=0) にあるとき、リグは、プロファイルしたオリジナル・アンプに、同じギターを接続した場合と同じように反応します。各リグごとの歪み具合は、GAIN ノブでコントロールしてください。

◆ Input Source (インプット・ソース) の選択

プロファイラーに信号を入力する端子は、「Front Input」「Alternative Input」「Return Input」「S/PDIF」の4つの中から選択できます：

Front Input (フロント・インプット)	フロントパネル右下にあり、標準的なギター、ベースを接続するハイ・インピーダンス／ロー・ノイズ入力です。
--------------------------	---

<p>Alternative Input (オルタナティブ・インプット)</p>	<p>リア・パネルにもハイ・インピーダンス入力があります。ラックケースに収めたり、ワイヤレス受信機などの機器経由でギター／ベースを接続する時に便利でしょう。フロント・インプットと厳密に比較すると、ほんの少しノイズです。但し出力の小さいギターで激しく歪むリグを使うといった場合に少し気になる程度です。</p> <p>フロント・インプットにもプラグが挿入されているときはフロント・インプットが優先になります。</p> <p>ステレオ・エフェクト・ループを使用する際には、オルタナティブ・インプットがリターン・右チャンネルとして使用されるため、このインプットを楽器入力には使用できません。ステレオ・エフェクト・ループをアサインすると、オルタナティブ・インプットは常にリターンとして機能します。</p>
<p>Return Input Reamp (リターン・インプット・リアンプ)</p>	<p>「リターン・インプット・リアンプ」を選択すると、RETURN INPUT が、リアンプのためのスタジオ・ライン・レベルの入力になります。XLR か TRS バランス入力の何れかが使用できます</p>
<p>S/PDIF Input Reamp (S/PDIF インプット・リアンプ)</p>	<p>S/PDIF IN をリアンプに使用するときを選択します。S/PDIF IN はステレオですが、左チャンネルのみがリアンプ入力として使用されます。S/PDIF 端子に何も接続されていなかったり、同期信号が検知されない場合は、S/PDIF 端子は機能せず、フロント・インプットが有効になります。</p> <p>RETURN INPUT および S/PDIF IN には、クリーン・センスとディストーション・センスの設定は作用しません。何れかをリアンプ用のインプットに設定すると、Reamp Sens (リアンプ・センス) というパラメータがアクティブになり、入力レベルの調整が行えます。</p>

◆ Reamp Sens (リアンプ・センス)

このパラメータについては、リファレンス・マニュアルの「リアンプ」の章で詳しく説明されています。

INPUT LED (インプット LED) (12)

入力信号のレベルを表示します。緑～黄色は OK、赤になるとレベルが高すぎることを示します。

NOISE GATE (ノイズゲート) ノブ (13)

インプット・セクションにあるインテリジェントなノイズ・ゲートをコントロールします。ノブを少しづつ右に回し、ハムなどのノイズが聞こえなくなる位置を見つけて下さい。ちょうどノイズが消える位置より右には回さないで下さい。適切な位置にセットすると、ギターが発音中もノイズが消えていることに気づくでしょう。一般的なノイズゲートと違い、リリースなどの設定をする必要はありません。このノイズゲートの設定はリグごとに保存されます。

クリーン・センス同様、このノイズゲートはインプット・セクションに属し、リグまたはインプットのプリセットとして保存されます。インプット・セクションをロックすると、このノイズゲートの内容もロックされます。

プロファイラー・モードにおいても、このノイズゲートは機能しますが、プロファイリングには影響しません。

OUTPUT/MASTER (アウトプット/マスター) ボタン (14)

このボタンを押すと、以下のようなアウトプットのセッティングに関する画面が現れます：

- 各アウトプットのボリューム
- 各ボリュームを MASTER VOLUME ノブに連動 (Link) させるかどうかの設定
- 各アウトプットに送出する内容の選択
- メインアウト、モニターアウト個別のイコライザー

- モニターアウトに送出する信号のみバーチャル・スピーカーキャビネットをバイパスする「Monitor Cab Off」

「Monitor Cab Off」をアクティブにすると、ステージ上ではモニターアウトの出力からパワーアンプを通じてギターキャビネットをドライブしつつ、メインアウトからは、バーチャル・ギターキャビネットを含む信号を出力し、PA ミキサーに送ることができます。

アウトプットの設定はグローバル・パラメータです。リグには含まれませんので、リグを切り替えても設定が変わることはありません。モジュールやセクションと同じくプリセットを保存することはできますので、ライブ会場やスタジオなどの環境に応じた内容に素早く切り替えることは可能です。

- ✓ アウトプットの設定に関する詳しい内容と応用方法についてはリファレンス・マニュアルをご参照下さい。

MASTER VOLUME (マスター・ボリューム) ノブ (15)

マスターボリュームは常にグローバル・パラメータです。リグには含まれません。このボリュームの設定は、音のキャラクターに影響を与えません。

デフォルト設定では、ヘッドホンを含む全てのアナログ・アウトのボリュームがマスターボリュームに連動 (Link) しています。各アウトプット・ボリュームの Link は、アウトプット・セクションの設定画面でオン/オフすることができます。

VOLUME (リグ・ボリューム) ノブ (16)

各リグのボリュームをコントロールし、各リグの情報として保存されます。リグ間の音量バランスを整えるときに便利でしょう。ファクトリー・リグは、全てセンターの位置 (0 dB) にセットしてあります。ストップ、スタック、エフェクツのボリュームとは異なり、このボリュームの設定は音のキャラクターに影響を与えません。

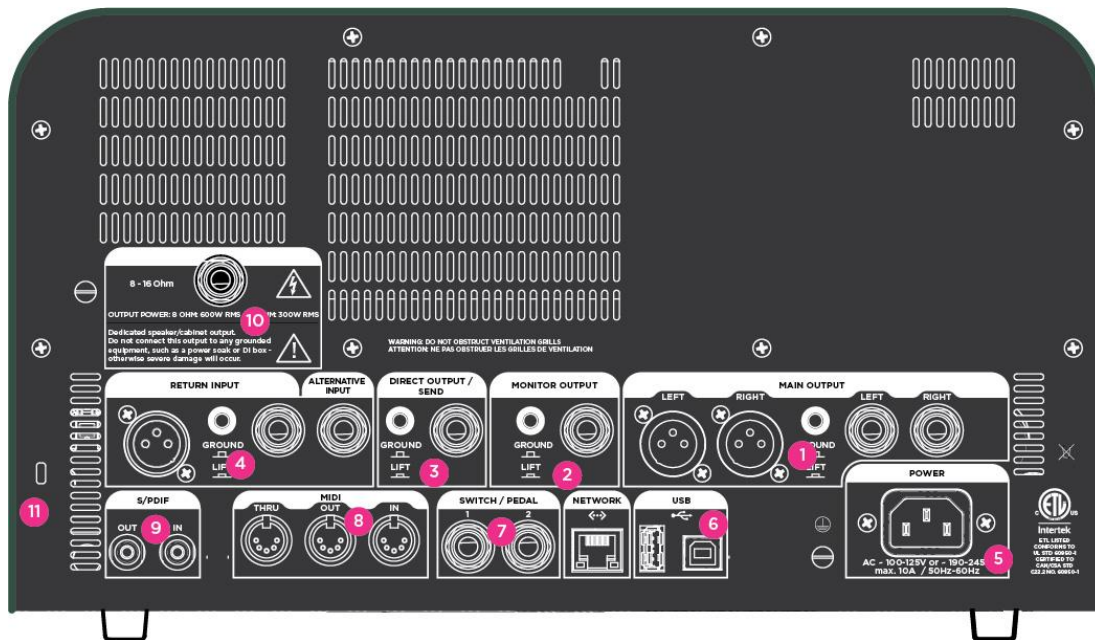
UNDO/REDO (アンドウ/リドゥ) ボタン (17)

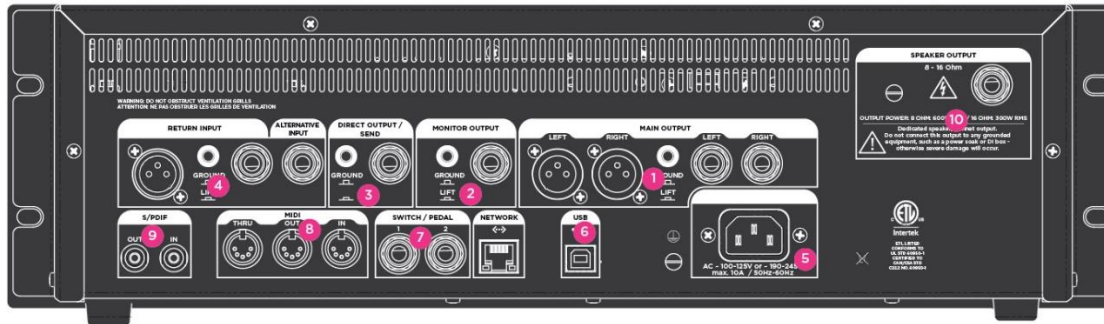
選択中のリグのパラメータをエディットした直後、UNDO ボタンで元の設定に戻すことができ、UNDO 実行直後は、REDO でエディット内容を呼び戻すことができます。

USB (18)

USB メモリーをさし込み、バックアップを取ったり、ファームウェアをアップデートしたりします。詳しくはリファレンス・マニュアルをご参照下さい。プロファイラー・ヘッドやパワーヘッドの場合、この端子はリア・パネルにあります。

リア・パネル





MAIN OUTPUTS (メイン・アウト) (1)

レコーディングやPAのミキサーには、ステレオのメイン・アウトを接続します。アンプおよびキャビネットやエフェクトを含むリグの全てが出力されます。XLR (バランス)と1/4インチTSジャック (アンバランス)の両方を備えています。XLR端子は、仮にミキサーからファンタム電源 (48V) が送られても破損しないように保護されていますが、音質を重視される場合は、ファンタム電源はオフにしてください。各インプット同様にグラウンド・リフト ボタンを備えています。

MONITOR OUTPUT (モニター・アウト) (2)

ステージでのモニターに最適なモノラル出力です。他のアウトプットとは独立したボリュームやEQを備えています。そしてグラウンド・リフトも。

この出力にパワーアンプを接続し、ギターキャビネットをドライブすることもできますが、その場合は、プロファイラー内のバーチャル・キャビネットを通して信号が、さらに実際のギターキャビネットを通るということを避けるため、アウトプット・メニューの「Monitor Cab Off」をアクティブにしてください。

バーチャル・キャビネットのキャンセルは、CABINET ボタンを押すことでも可能ですが、以下の2点において「Monitor Cab Off」との違いがあります： 1) CABINET モジュールのオン/オフはグローバル・パラメータではないので、ロックしておかない限り、リグによって設定が変わってしまう。2) 「Monitor Cab Off」は、モニターアウトのみに作用しますが、CABINET をオフにすると、メイン・アウトを含む全てのアウトプットからバーチャル・キャビネット抜き信号が出力されることになります。

DIRECT OUTPUT/SEND (ダイレクト・アウト/センド) (3)

このモノ・アウトの主な用途は、プロファイリングの作業時に、ギターのダイレクト信号とプロファイラーが発するテスト信号を、プロファイリングの対象となるリファレンス・アンプに送ることですが、他にも様々な用途があります。例えば RETURN インプットと組み合わせてエフェクト・ループを構成します。エフェクト・ループとして使用しない場合は、この出力をリアンプ用としてドライなギター信号の録音に使うこともできます。

- ✓ ダイレクト・アウト/センドも、他のアウトプットと同様に出力する内容を選択することができます。例えばメイン・アウトと同じ内容を出力したり、ディレイとリバースのウェット (エフェクト音のみ)を取り出ししたりといったことが可能ですので、多彩なアプリケーションが考えられるでしょう。

RETURN and ALTERNATIVE IN (リターン、オルタナティブ) イン (4)

リア・パネルにあって、ラックに収納して使う場合などに便利なギター・インプットが ALTERNATIVE IN です。インプット・セクションの「Input Source」で選択します。

Return は、TRS ジャックと XLR の両方を備えています。プロファイリングの際、対象となるリファレンス・アンプからの信号を戻す入り口となりますが、DIRECT OUT/SEND と組み合わせることでエフェクト・ループを構成します。また RETURN と ALTERNATIVE IN の組み合わせで、ステレオ・リターンとしても機能します。詳しくリファレンス・マニュアルはの「エフェクト・ループ」の章をご参照下さい。

RETURN と ALTERNATIVE in は、AUX インにもなりますので、例えば MP3 プレーヤーなどを接続し、その音楽に合わせてギターを演奏するといったことが可能です。入力された信号のミックス・レベルは、MASTER セクションの画面で調整することができます。

- ✓ プロファイラーの XLR 出力端子は、ファンタム電源を供給できませんのでご注意ください。

POWER (5)

電源ケーブルを接続します。プロファイラーはユニバーサル電源設計で、100V～240V の電源供給に対応します。

USB (6)

タイプ A の USB ポートは、USB メモリーなどを接続し、データのバックアップやファームウェアのアップデートを行います。プロファイラー・ラックおよびパワーラックの場合は、フロントパネルにあります。バックアップやアップデートについては、*リファレンス・マニュアル*をご参照下さい。

タイプ B のポートには PC や Mac を接続し、ライブラリアン・ソフト「リグ・マネージャー」を使うときに使用します。

NETWORK (イーサネット) (6)

ここにはプロファイラー・リモートを接続します。

PEDALS and SWITCHES (ペダル / スイッチ) (7)

エクスプレッション・ペダルやフット・スイッチを接続し、様々なコントロールをアサインできます。デフォルト設定では Pedal 2 がボリューム・ペダル、Pedal 1 がワウに設定されています。SYSTEM メニューで、それぞれのジャックに接続したペダルまたはスイッチの機能を選択します。

MIDI (8)

MIDI フット・コントローラーなどの機器を接続します。プログラム・チェンジでリグの切り替え、コントロール・チェンジでボリュームやワウをコントロールすることが可能です。MIDI クロックを受信するとプロファイラーのテンポがそれに同期し、ディレイやモジュレーション系エフェクトのタイミングやスピードを追従させることができます。

S/PDIF (デジタル・イン / アウト) (9)

S/PDIF に準拠したデジタル入出力を持つ機器と接続できる端子です。

SPEAKER OUTPUT (10)

パワーヘッド、パワーラックにのみ装備されています。詳しくは「パワーアンプ」の章をご参照下さい。

Kensington™ Lock (ケンジントン・ロック) (11)

盗難防止のために、ケンジントン・ロックを取り付けることができます。

パワーアンプ

パワーラックやパワーヘッドには、4Ω、8Ω、16Ω のギターキャビネットまたはパッシブ・スピーカー・システムを接続できるパワーアンプが内蔵されています。内蔵パワーアンプには、MONITOR OUTPUT からの出力が送られますので、MONITOR OUTPUT と同じ内容の信号が増幅されて SPEAKER OUT に出力されますので、「MONITOR OUTPUT」の章を併せてご参照下さい。アウトプット・メニューの中には、以下のパワーアンプに関するページが含まれています：

◆ Power Amp switch (パワーアンプ・スイッチ)

内蔵パワーアンプをオン／オフするスイッチです。内蔵されている D 級パワーアンプは、真空管アンプと違い、電源オンのままでも、スピーカーを接続せずにも使用しても、特に問題はありません。もし電力消費を押さえるために必要であればオフして下さい。

◆ Power Amp Booster (パワーアンプ・ブースター)

内蔵のパワーアンプは、MONITOR OUTPUT の出力が接続されています。MONITOR OUTPUT は、クリーン・トーンの強いアタックのレベルもカバーできるよう、十分なヘッドルームを持っています。しかしながらこの大きなヘッドルームが、パワーアンプへの出力のレベルを小さめにしまい、満足のいく音量を得られないことがあるかもしれません。そのような場合に備え、プロファイラーのシグナル・フローで設定された「Monitor Volume」「Rig Volume」に、さらに最大 12dB ボリュームを上乗せすることができる「Power Amp Booster」が用意されています。「Power Amp Booster」はそれ以上パワーアンプの音やダイナミクスに影響を与えることはありません。内蔵パワーアンプがオフになっていると、「Power Amp Booster」も非アクティブになり、MONITOR OUTPUT のヘッドルームがフルに使える状態になります。

内蔵パワーアンプの出力は、8Ω 負荷時には 600W、16Ω 負荷時には 300W になります。内蔵パワーアンプは、ダイナミックなクリーン・トーンでもクリップしないよう、十分なヘッドルームを持っています。非常に大きなレベルや瞬間的なピークは、ソフト・クリッピング回路により、自然で心地よいコンプレッションにより押さえ込まれます。しかしながら、600W という大きな出力は、やはり注意深く扱う必要があります。もしスピーカーに異常を感じたら、直ぐに「Monitor Volume」や「Power Amp Booster」を下げてください。

4Ω 負荷時でも出力は 600W に制限されます。600W を超える状態になると保護回路が動き、短い間ですが音が出なくなります。このような状態になるのは、超がつくほど大きなボリュームにした場合に限られますが、4Ω のスピーカーを使用する場合は、あなたの演奏によって最大の音量が 600W を超えることがないよう、慎重に確認しておいて下さい。

警告！

パワーソークなどのアクティブ・デバイスは、絶対に SPEAKER OUT に接続しないで下さい。そのような機器のグラウンドを持つ回路がパワーアンプをショートさせ、破損する危険性があります。

SPEAKER OUTPUT. に接続できるのは、パッシブ・スピーカー・システムのみです。

ラック等にプロファイラーを収納したまま使用するときは、十分な換気が行われるようにして下さい。十分な換気が行われなまま使用を続けると、オーバーヒート回避のためにパワーアンプがシャット・ダウンすることがあります。

内蔵パワーアンプは、ダイナミックなクリーン・トーンでもクリップしないよう、十分なヘッドルームを備えていますが、大きな音量で使用している際に、もしスピーカーに異常を感じたら、直ちに「Monitor Volume」および「Power Amp Booster」を下げてください。

チューナーを使う

チキンヘッド・ノブの上にあるチューナーLED は常にアクティブになっていますので、演奏中でもチューニングを確認することができます。チューナー以外のモードで使用中でも、ギターのコッキングが合っているのかを LED が示してくれます。チューニングが全く合っていない場合は外側の LED のみが点灯し、正しいピッチに近づくと中央の LED が明るくなり始め、正しくチューニングされると中央の白い LED のみが点灯し、両側の緑の LED が消灯します。

じっくりチューニングしたい場合は、チキンヘッド・ノブを TUNER の位置に合わせてください。LCD 画面全体にチューナーが表示され、同時にチューナーに関連する機能設定が可能になります：

Mute Signal	アクティブにすると、チューナー・モードのときに出力がミュートされ、音を出さずにチューニングすることができます。ギターを交換するときなどに便利な機能です。
Master Tune	基準ピッチを設定します。デフォルト値は 440 Hz になっています。

チューナー・モードのときは、LED がより敏感に小さな音にも反応します。

リグを作る

これまでにデジタルのエフェクターやプロセッサーを操作したことがあれば、プロファイラーで自分のリグを作る作業がいかに楽しいかが直ぐに判るでしょう。プロファイラーの操作は驚くほど簡単です。ただモジュールやセクションを選んでフォーカスし、**BROWSE** ノブでプリセットを選択し、必要に応じてパラメータを変えることで味付けすればよいのです。ここでは手始めとして、各セクションやモジュールの概要をご説明します：

ストップ・セクション

このセクションのシグナル・フローはモノラルです。プロファイラー内のパーチャル・ギターアンプの手前に、プロファイラー内蔵のモデリング・エフェクターを並べることができるセクションです。STOMP モジュール A/B/C/D は、それぞれボタンを長押しすることアクティブにし、フォーカスすることができます。フォーカスした状態 (ボタンが点滅) で、TYPE ノブを回すと、様々な種類のエフェクトのアルゴリズムの中から、そのモジュールにアサインするエフェクトが選べます。エフェクトを選択するとエフェクトのリストが消え、選択したエフェクトがモジュールにアサインされた状態になります。

◆ ストップ・タイプ

ストップ・セクションで使用できるエフェクトには様々なタイプがあります。ワウやバンドパス・フィルター、コム・フィルターから、いくつもの人気のピンテージ・ペダルをモデリングしたディストーションはもちろん、ピンテージ・コーラスやフランジャー、フェイザー、ビブラート、トレモロなどのモジュレーション系にはロータリー・スピーカーまで網羅されています。

ストップ・エフェクトのほとんどのパラメータは、その名前から直ぐに理解できると思いますが、各パラメータの詳細については、*リファレンス・マニュアル*を参照して下さい。

スタック・セクション

プロファイリングされたアンプ／キャビネットを EQ から成るセクションです。STACK ボタンを長押しすると、スタック・セクションにフォーカスされ、エディットが可能になります。ソフト・ボタン「Rename」を押してスタックの名前を変更したり、BROWSE ノブでスタックのプリセットを読み込んだりすることができます。特にスタック・セクションでは、プリセットの他に、「From Rig」で他のリグのスタック・セクションつまりバーチャル・アンプを読み込むことも可能です。「From Rig」は、スタック・セクション以外ではアンプ・モジュール、キャビネット・モジュールでも実行できます。BROWSE ノブを回したときに表示される内容は、「View」の設定に依存します。

◆ アンプ・モジュール

AMPLIFIER ボタンを長押しするとアンプ・モジュールにフォーカスします。ここではプロファイリングされたアンプに関するパラメータのエディットや、他のプロファイルを読み込みなどを行います。さらに詳しい内容は、リファレンス・マニュアルをご参照下さい。

◆ EQ モジュール

EQ ボタンを長押ししてフォーカスすると、LCD 画面下のソフト・ノブで、以下の EQ パラメーターがエディットできます。

◆ キャビネット・モジュール

CABINET ボタンを長押しすると、キャビネット・モジュールにフォーカスします。他のリグのアンプ・プロファイルと組み合わせて新しいスタックを作ることができます。「High Shift」「Low Shift」「Character」という 3 つのパラメータで、キャビネット自体の特性をエディットすることも可能です。詳しくはリファレンス・マニュアルをご参照下さい。

エフェクツ・セクション

ストンプ・セクション、スタック・セクションというシグナル・フローに続き、ステレオ・エフェクトを配置できるのがエフェクツ・セクションです。以下のモジュールで構成されます：

◆ エフェクト X

エフェクト・モジュールの X には、STOMP A/B/C/D と同じエフェクトをステレオで使用できるモジュールです。コーラスのように、ステレオによってより広がりが出るエフェクトに適しています。

◆ モジュレーション

モジュレーション・モジュールにも、X 同様 STOMP A/B/C/D と同じエフェクトをステレオで使用できるモジュールですが、プロファイラー・ヘッドとパワーヘッドのフロントパネルには、モジュレーション系エフェクトを想定した MOD RATE と MOD INTENSITY ノブが装備されていますので、コーラスやフランジャー、フェイザーやロータリースピーカーといったエフェクトをアサインすると良いでしょう。

◆ デイレイ

デイレイ音のステレオ定位やスピード、リピートのパターン、音質なども設定できるステレオ・デイレイです。DELAY FEEDBACK と DELAY MIX は、フロント・パネルにある専用ノブで素早くエディットすることができます。デイレイのタイプや各パラメータの詳細については、*リファレンス・マニュアル*をご参照下さい。

デイレイ・ボタンの上の LED は、デイレイのパターンやタイミングに同期して点滅します。

◆ リバース

内蔵リバースにはルームやホールなどのタイプが選べます。REVERB TIME と REVERB MIX は、フロント・パネルの専用ノブでエディットすることができます。

- ✓ デイレイ音とリバース音は、リグを切り替えても途切れずに残ります。この機能を「スピル・オーバー」と呼びます。

システムを設定する

システム・メニュー

SYSTEM ボタンを押すとシステム・メニューが表示されます。システム・メニューに含まれるのは、「Pedals Settings」や「LCD Contrast」「Date and Time」などのグローバル・パラメータです。これらのパラメータについてはリファレンス・マニュアルをご参照下さい。

リグ・メニュー

RIG ボタンでアクセスできるのは、リグに関するパラメータです。テンポやボリューム・ペダルの設定など、リグごとに設定、保存できるパラメータです。詳しくはリファレンス・マニュアルをご参照下さい。

QUICK (クイック) ボタン

クイック・ボタンには、このボタンで直ぐに呼び出したい画面を登録しておくことができます。

リモート・コントロール

プロファイラー専用設計されたプロファイラー・リモートを接続すると、プロファイラーを自在に遠隔操作できます。プロファイラーを遠隔操作は、コンピューターや MIDI フット・コントローラーから MIDI メッセージを送ることも可能です。さらに詳しい情報は、*リファレンス・マニュアル*に記載されています。